



宮城

被災地で女性が起業
着物地を巾着にリメイクした「FUGURO」
ふるさとに埋もれた価値を
世界に誇れる宝に

WATALIS

宮城県南部に位置する人口約3万人の小さな城下町「亘理」にはかつて、着物の残り布で仕立てた巾着袋にお米を入れてお祝いやお返しにするという風習があった。平成23年の秋、東日本大震災のため取り壊される呉服店から昭和の古い着物地を譲り受けたことをきっかけに、地元的女性たちが「ふぐろ」（「袋」の地元方言）の風習を再現したのが、「FUGURO」製品である。「一般社団法人WATALIS」（宮城県亘理郡亘理町字中町、引地恵代表理事、0223・3557341、<http://watalis.jimdo.com/>）の名前は、亘理町と「お守り」という意味の「TALISMAN」を組み合わせた。

今もなお多くの人々が仮設住宅などでの不自由な暮らしを余儀なくされている中でふるさとに埋もれた価値を蘇らせようと、地域の



亘理の女性たちが1針1針心をこめる

女性たち約40名で着物地の価値を高め再び世に出すという「アップサイクル文化」を広げている。

小さな布も無駄にせず縫いためたFUGUROは、米粒を直接入れても縫い目に入らないように裏地を付け、中身がこぼれないようにしっかりと口を締める紐は両引きにして、渡す相手への配慮をこめてつくられている。平成25年は日本全国から回収した2.3tもの着物地をFUGUROなどにアップサイクルし、その活動とクオリティーが高く評価され、百貨店などでの販売はもとより、スイスの高級腕時計パッケージに採用されたり、アメリカのパレルブランドとのコラボ商品の開発にまでつながっている。



色鮮やかに美しく蘇った「FUGURO」

かつての着物が亘理の女性たちの手によって美しいFUGUROに蘇るのは、まさに被災地の復活と重なる。同法人のオンラインショップではFUGUROのほか、ストラップ、カードケース、マグネット、がまぐちなど多数の商品を扱っている。また、お客様の想い出の詰まった大切な着物をお預かりし、FUGUROなどの小物につくり替えてお返しする「FUGUROオーダーシステム」や、材料となる着物地の提供も受け付けているので、ぜひ一度ホームページをご覧ください。